

## (仮称)彦根市新市民体育センター新築設計事業基本方針

- 1 人と人が集う“まちなか交流の拠点”としての施設
  - ・ 駅近、人口集積地という立地条件を活かし、地域の人々や通勤通学で駅を利用する人のみならず、子どもからお年寄りまで、さまざまな人が集う拠点となるよう“まちなか交流の拠点”を目指します。ちょっとした集まりで、地域の行事で、仕事や学校の帰り道で、小中高大学生の運動で、様々な目的で多方面から人が気軽に立ち寄り集まることで、地域や駅前のにぎわいを創出することを目指す。
- 2 競技スポーツを推進し、競技力の向上を図る施設
  - ・ 市民の競技力向上を図るため、競技スポーツが円滑に行われるような環境整備を目指す。
  - ・ 国体開催後も、中高生を始めとして多くの人々が参加する大会等の誘致により、スポーツへの興味や関心を高め、将来のスポーツ振興や、交流人口の増加が見込めるような施設を目指す。
- 3 健康づくり・体力づくりを推進する施設
  - ・ 多くの市民が生活の中に運動を取り入れ、運動のきっかけづくりの提供と運動継続のための支援ができる環境整備を目指す。
  - ・ 競技スポーツだけでなく、各種教室機能など、多様なニーズに対応できる体育館を目指す。
  - ・ スポーツ団体向けの情報や運動プログラムの情報発信など機能の充実を目指す。
  - ・ ライフステージに応じたスポーツ活動が出来るよう、ソフト、ハード面での整備を目指す。
- 4 誰もが使いやすく楽しめる施設
  - ・ 誰もが使いやすい、ユニバーサルデザインに努めた整備を目指す。
  - ・ スポーツに関わらず多様な目的で、誰もが気軽に訪れることのできる地域に密着した憩いの場としての整備を目指す。
- 5 市民の生活をサポートする施設
  - ・ 近隣の公園・小学校・病院・消防署等との連携により、大規模災害時における都市防災拠点としての整備を目指す。
- 6 環境や地域の歴史・文化に配慮した施設
  - ・ 地域の歴史や文化、豊かな自然と共生できる施設の整備を目指す。
  - ・ 資源の循環利用や省エネルギー型施設の導入など環境に配慮した施設の整備を目指す。

7 効率的に敷地全体の配置計画を立てること。

- ・「本要項 2 事業概要」を基に、限られた敷地に(仮称)彦根市新市民体育センター、緑地帯、駐車場などを適切に配置する。

現彦根市民体育センターは、(仮称)彦根市新市民体育センターが完成するまでに解体され、使用できない期間が生じること、また、隣接するひこね燦ぱれすを運営しながらの工事となるため、(仮称)彦根市新市民体育センター整備、ひこね燦ぱれす解体、排水施設設置、外構整備までを含めた工期短縮を可能とする計画とする。